

ヒヤリ・ハット調査
「長期間使用した製品によるシニア世代の危険」
(シニア世代のヒヤリ・ハット/詳細調査②)

平成24年2月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

1. 調査目的	1
2. 調査概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査内容	1
(5) 回答者の属性	1
3. 調査結果	2
(1) 全体的な傾向	2
(2) 電気製品	5
(3) 家具	12
(4) ガス製品	17
(5) 石油製品	20
4. まとめ	23
5. 結果の活用	23

1. 調査目的

日常生活で経験した「ヒヤリ・ハット」体験はどこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、都では、危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

平成 23 年 8 月に実施したヒヤリ・ハット調査「シニア世代に多い事故」の結果から、シニア世代は、製品を長期間使用している人が多いことがわかった。そこで、シニア世代が遭遇することが多い長期間使用した製品によるヒヤリ・ハットや危害の体験について詳しく調査した。

2. 調査概要

(1) 調査対象

東京都に居住する 60 歳以上の男女 3,000 人（インターネットアンケート登録モニター）

(2) 調査期間

平成 23 年 9 月 22 日～29 日

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

(4) 調査内容

本調査では、家庭で主に使用する製品を電気製品、家具、ガス製品、石油製品の 4 つの製品群に分け、具体的な製品名をあげて過去 5 年以内の長期間（10 年以上）使用した製品の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験の有無を聞いた。次に、ヒヤリ・ハットや危害の経験が「ある」と回答したものについて、ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数、ヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無、ヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況について選択式の設問で聞き、さらに、各製品群のヒヤリ・ハットや危害経験の中からひとつを選んでその具体的な内容を記述式の設問で詳しく聞いた。

(5) 回答者の属性

回答者の年代別割合は、60 歳代が 58.0%、70 歳代が 32.2%、80 歳以上が 9.8%だった。男女比は、全体として男性 64.4%、女性 35.6%だった。

なお、60 歳以上は、インターネットアンケート登録モニターが少ないため、同居している家族による代理回答を併用した。

	男女計(人)	内、代理回答	男性(人)	内、代理回答	女性(人)	内、代理回答
合計(人)	3,000	586	1,932	174	1,068	412
年代別割合(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
60歳代(人)	1,739	44	1,238	20	501	24
年代別割合(%)	58.0	7.5	64.1	11.5	46.9	5.8
70歳代(人)	966	294	583	82	383	212
年代別割合(%)	32.2	50.2	30.2	47.1	35.9	51.5
80歳以上(人)	295	248	111	72	184	176
年代別割合(%)	9.8	42.3	5.7	41.4	17.2	42.7

ヒヤリ・ハット ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
危害 ケガをした事例や発火・発煙・引火等重大な事故につながるおそれのある事例
「ケガ」には、やけどやかぶれ、呼吸困難、具合が悪くなった等も含まれる。

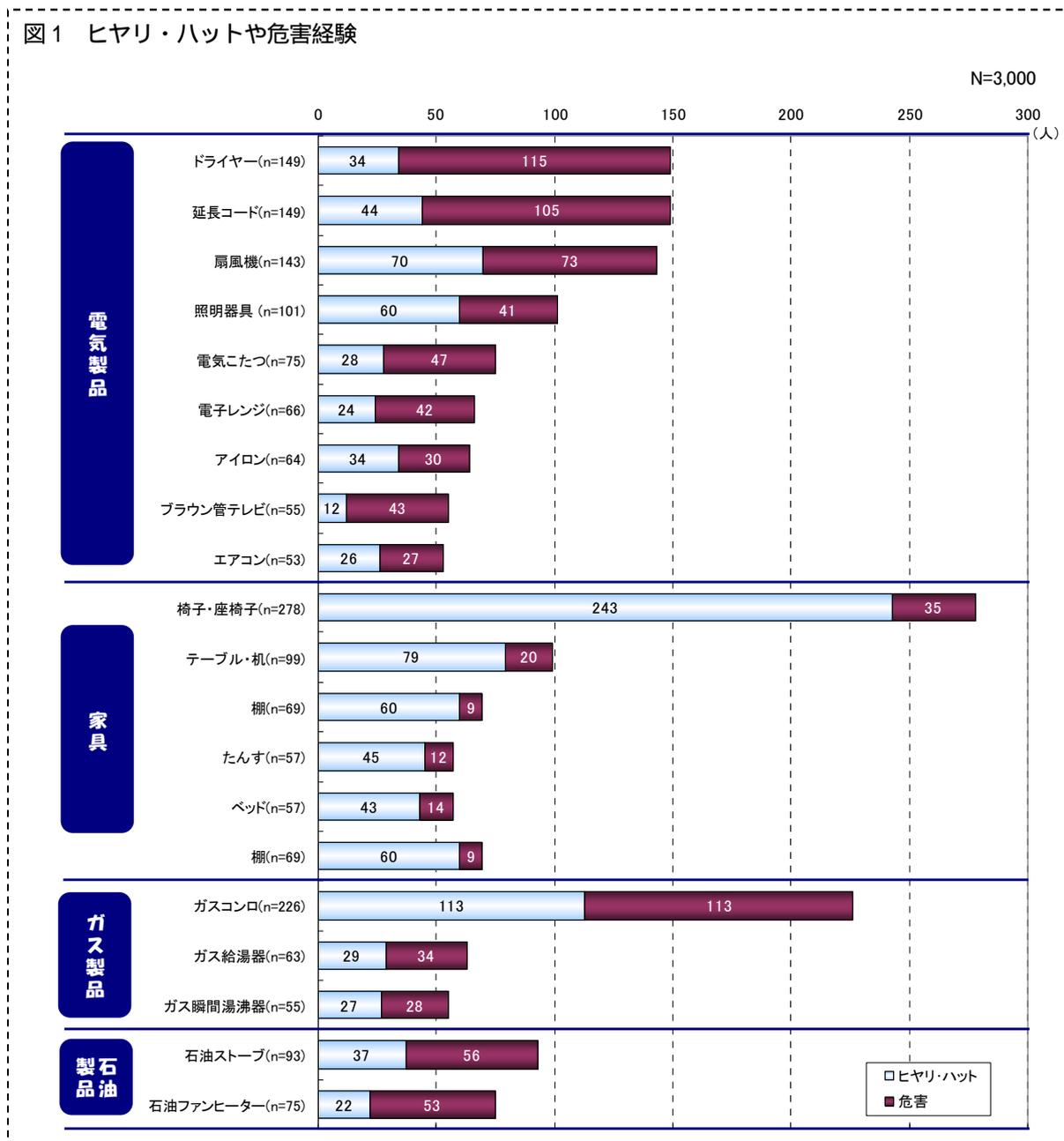
3. 調査結果

(1) 全体的な傾向

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図1は、調査全体で、長期間（10年以上）使用した製品の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験者が多いもの（50人以上）を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者が特に多かったのは、「椅子・座椅子」、「ガスコンロ」、「ドライヤー」、「延長コード」だった。

図1 ヒヤリ・ハットや危害経験

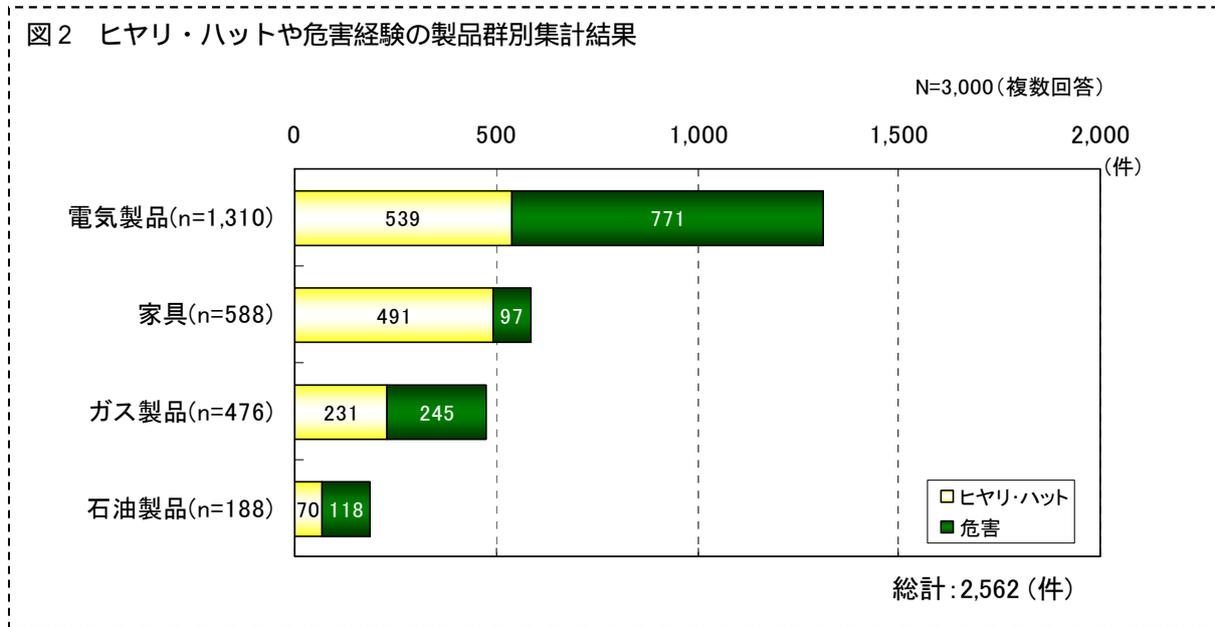


※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者の数を示す。
- ・グラフ上の「n=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者のうち、ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答した人の数を示す。
- ・回答比率(%)は、少数第2位を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・グラフ上の「(〇/〇)」(〇は数字)は、(ヒヤリ・ハット経験者の数/危害経験者の数)を示す。

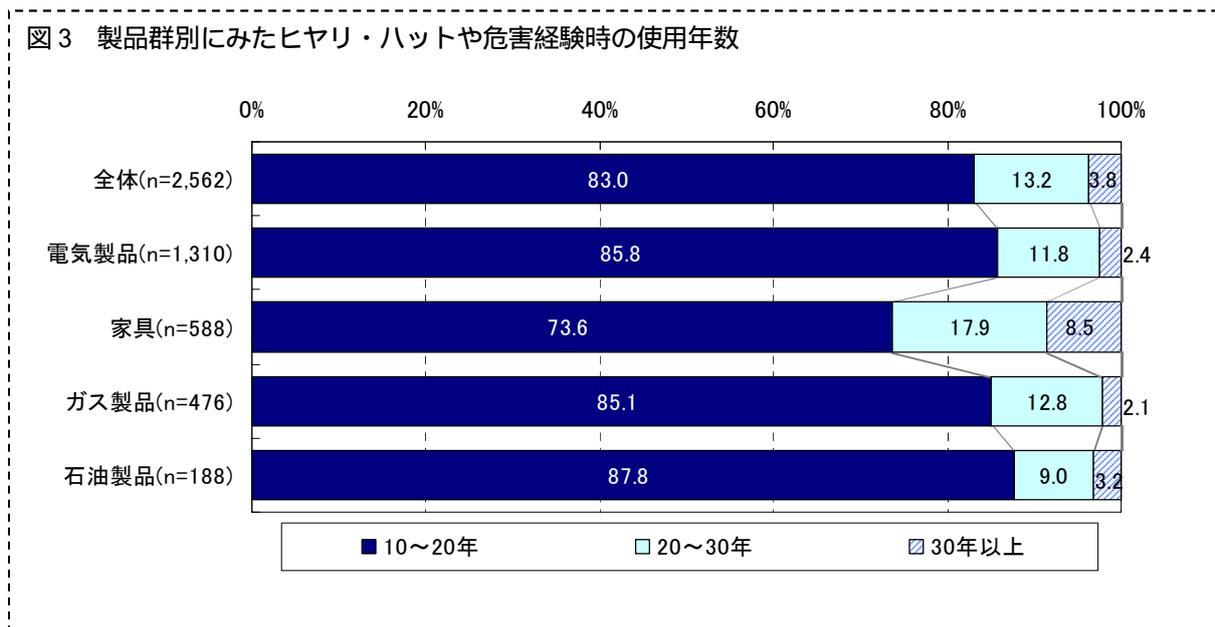
イ ヒヤリ・ハットや危害経験の製品群別集計結果

図2は、家庭で使用する各製品でヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答した人の数を製品群別に合計したものである。全体として、2,562件（ヒヤリ・ハット：1,331件、危害：1,231件）のヒヤリ・ハットや危害経験があった。「電気製品」や「家具」はどこの家庭でも使われていることもあり、ヒヤリ・ハットや危害の経験数も多くなっている。



ウ 製品群別にみたヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数

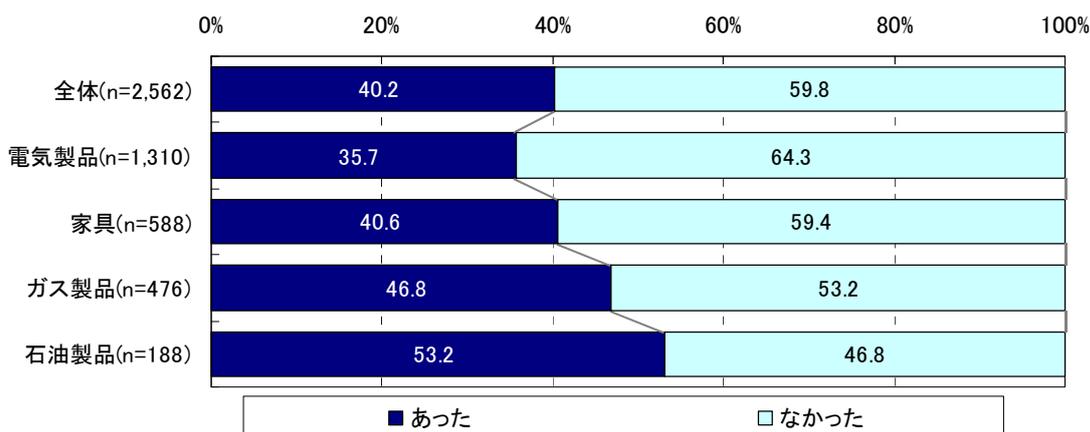
図3は、家庭で使用する各製品のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数を製品群別に集計したものである。製品群別にみると、「家具」は、ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数が「30年以上」と回答した割合が8.5%であり、他と比較して多くなっている。



エ 製品群別にみたヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無

図4は、家庭で使用する各製品のヒヤリ・ハットや危害の経験以前の異常の有無（ヒヤリ・ハットや危害経験をする前から異音、異臭、過熱、変形等の異常に気付いていたかどうか）を製品群別に集計したものである。製品群別にみると、異常が「あった」と回答した割合は、「石油製品」が53.2%で最も多かった。全体としては、40.2%でヒヤリ・ハットや危害の経験をする前から異常があったと回答している。

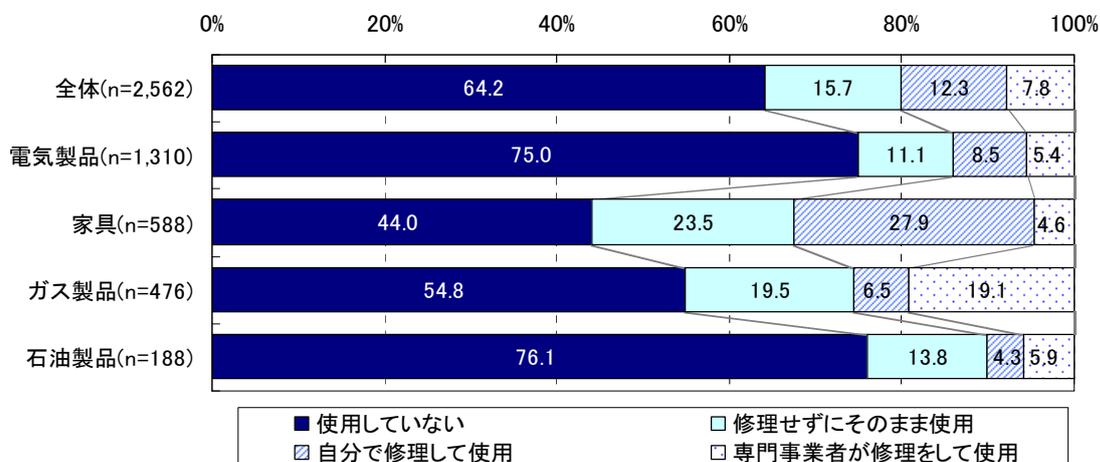
図4 製品群別にみたヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無



オ 製品群別にみたヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

図5は、家庭で使用する各製品のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況を製品群別に集計したものである。製品群別にみると、「家具」はヒヤリ・ハットや危害経験をした製品を「修理せずにそのまま使用している」と回答した割合が23.5%で最も多く、「自分で修理して使用している」と回答した割合も27.9%と高くなっている。

図5 製品群別にみたヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

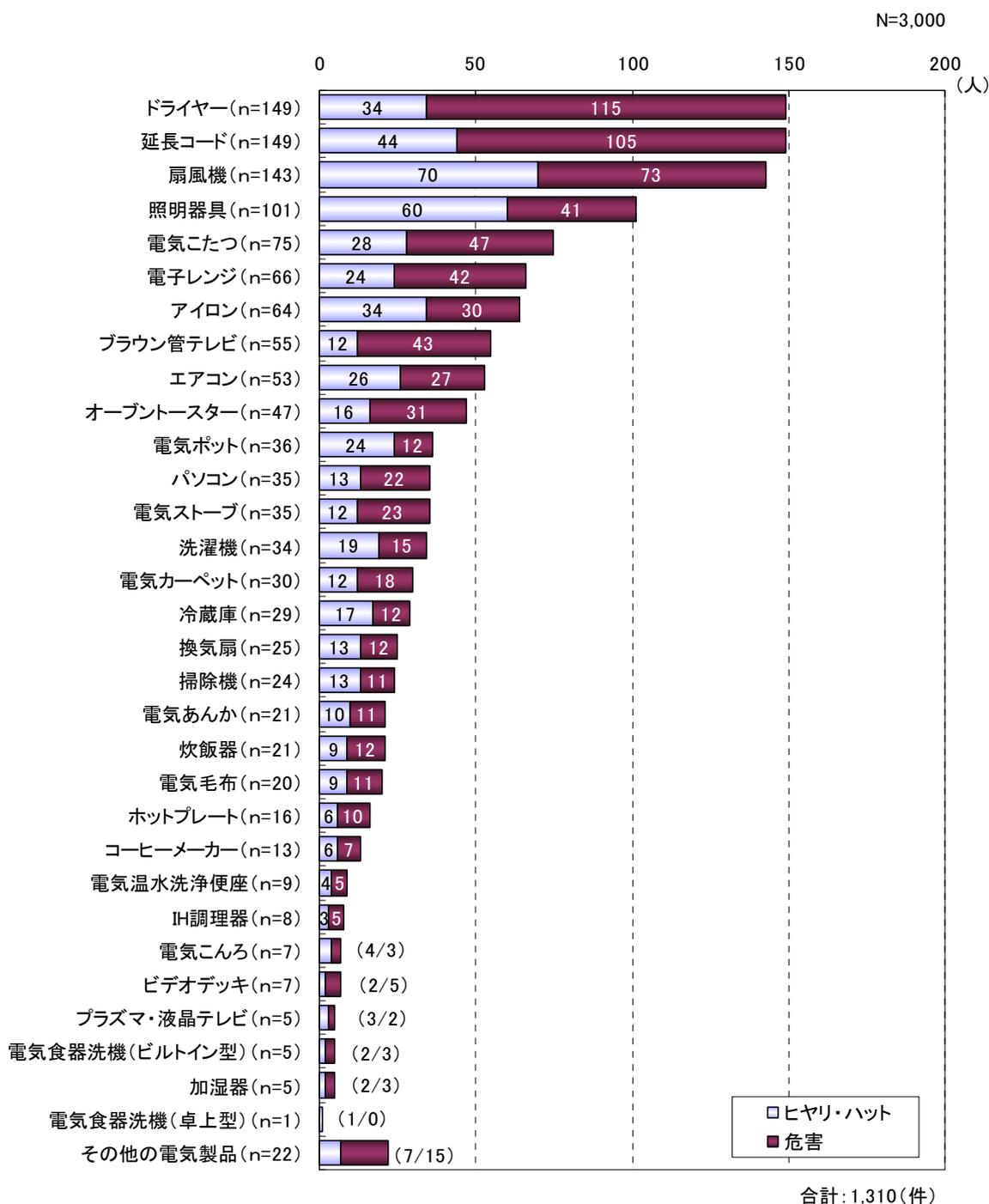


(2) 電気製品

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図6は、「電気製品」の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したのは、「ドライヤー」が149人（ヒヤリ・ハット：34人、危害：115人）、「延長コード」が149人（ヒヤリ・ハット：44人、危害：105人）で最も多く、次に「扇風機」が143人（ヒヤリ・ハット：70人、危害：73人）と続いている。「その他の電気製品」は、「電気シェーバー」、「コンセント」等があった。

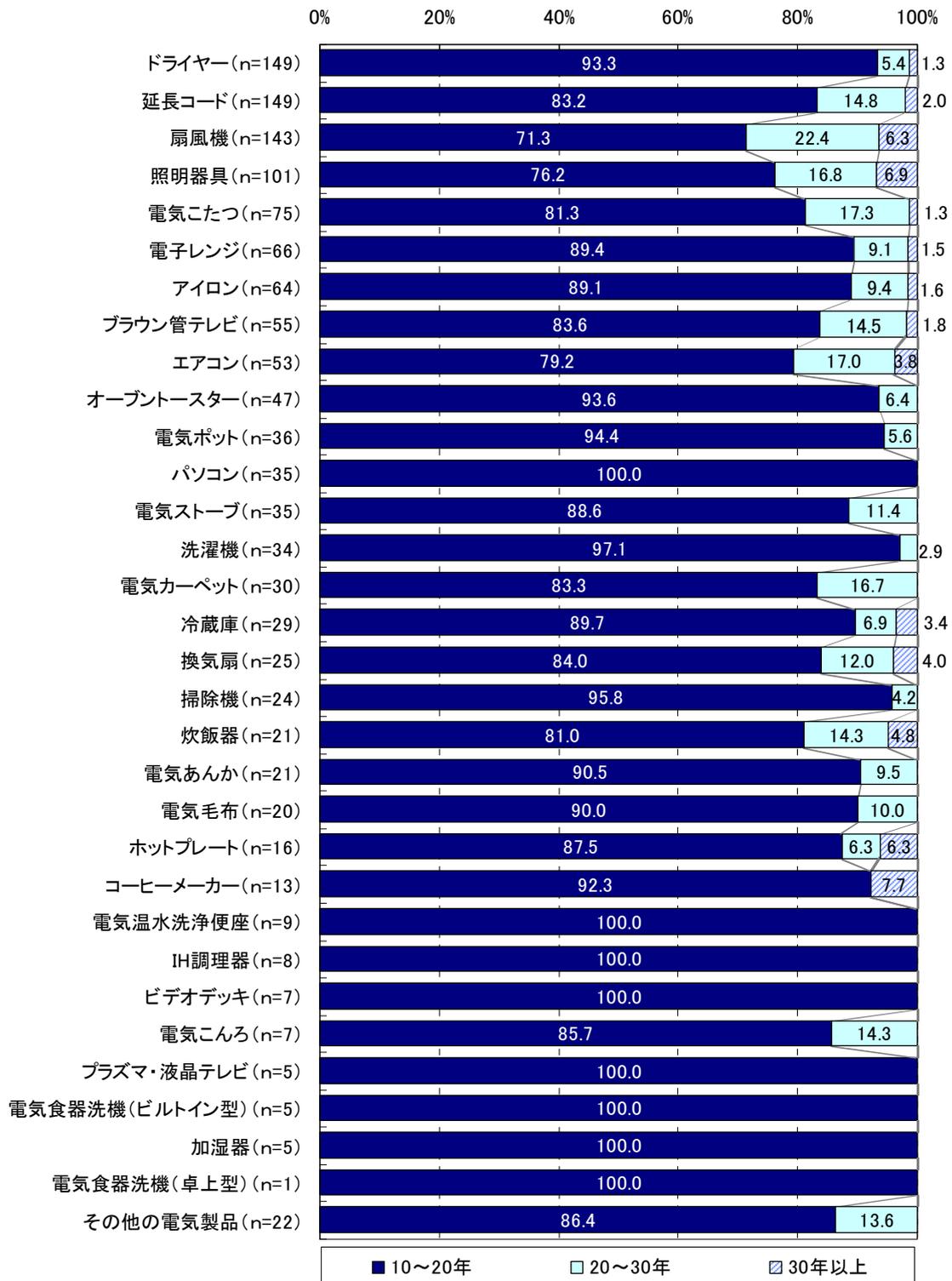
図6 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数

図 7 は、「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者が多い上位 10 製品について見ると、「10 年以上 20 年未満」と回答した割合が最も高いのは「ドライヤー」で 93.3%であり、「20 年以上」と回答した割合は、「扇風機」が最も高く 28.7%だった。

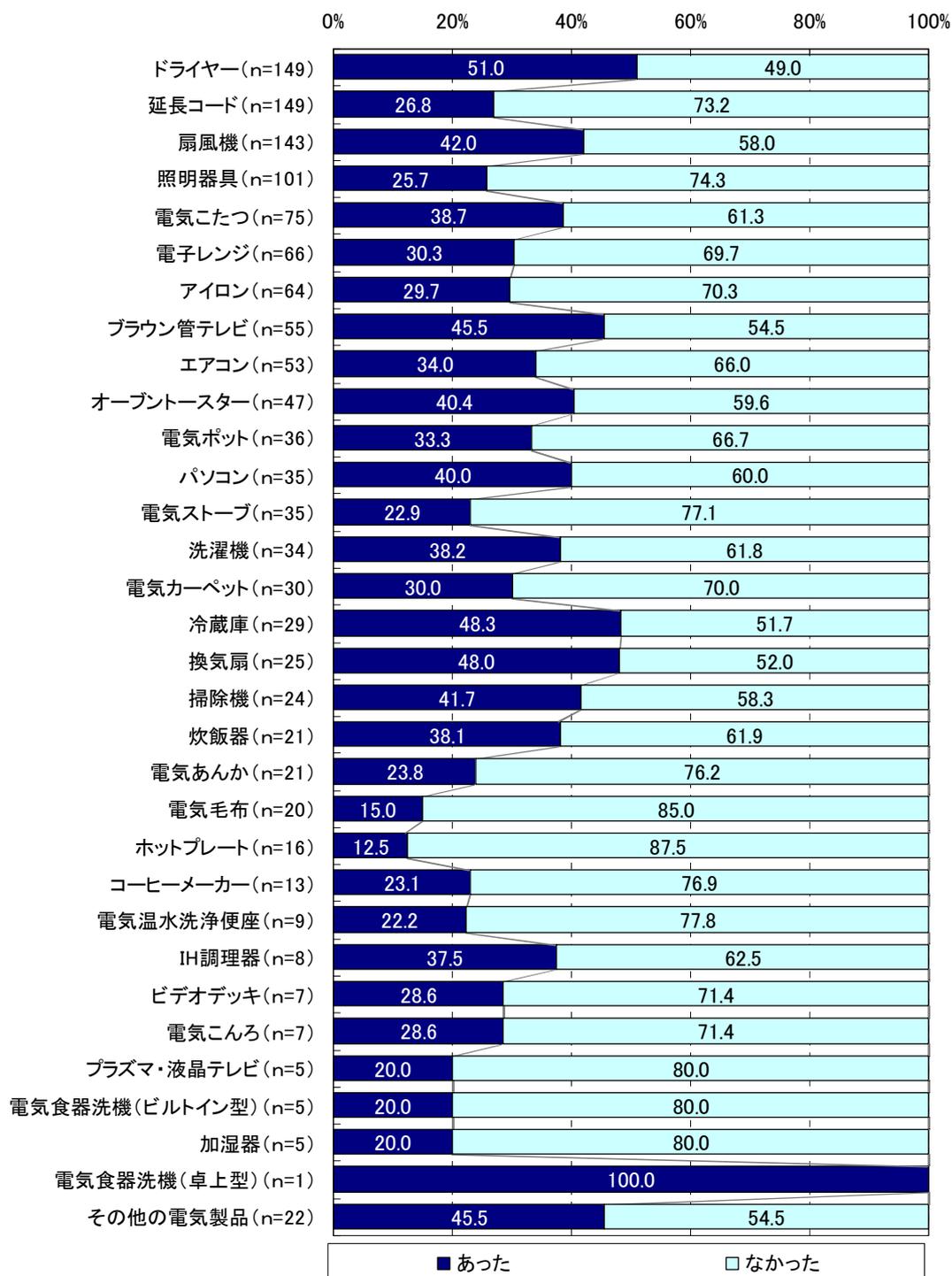
図 7 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数



ウ ヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無

図 8 は、「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者が多い上位 10 製品についてみると、異常が「あった」回答した割合は「ドライヤー」が最も高く 51.0%、次いで「ブラウン管テレビ」が 45.5%だった。異常の内容は、「過熱」や「異音」等だった。

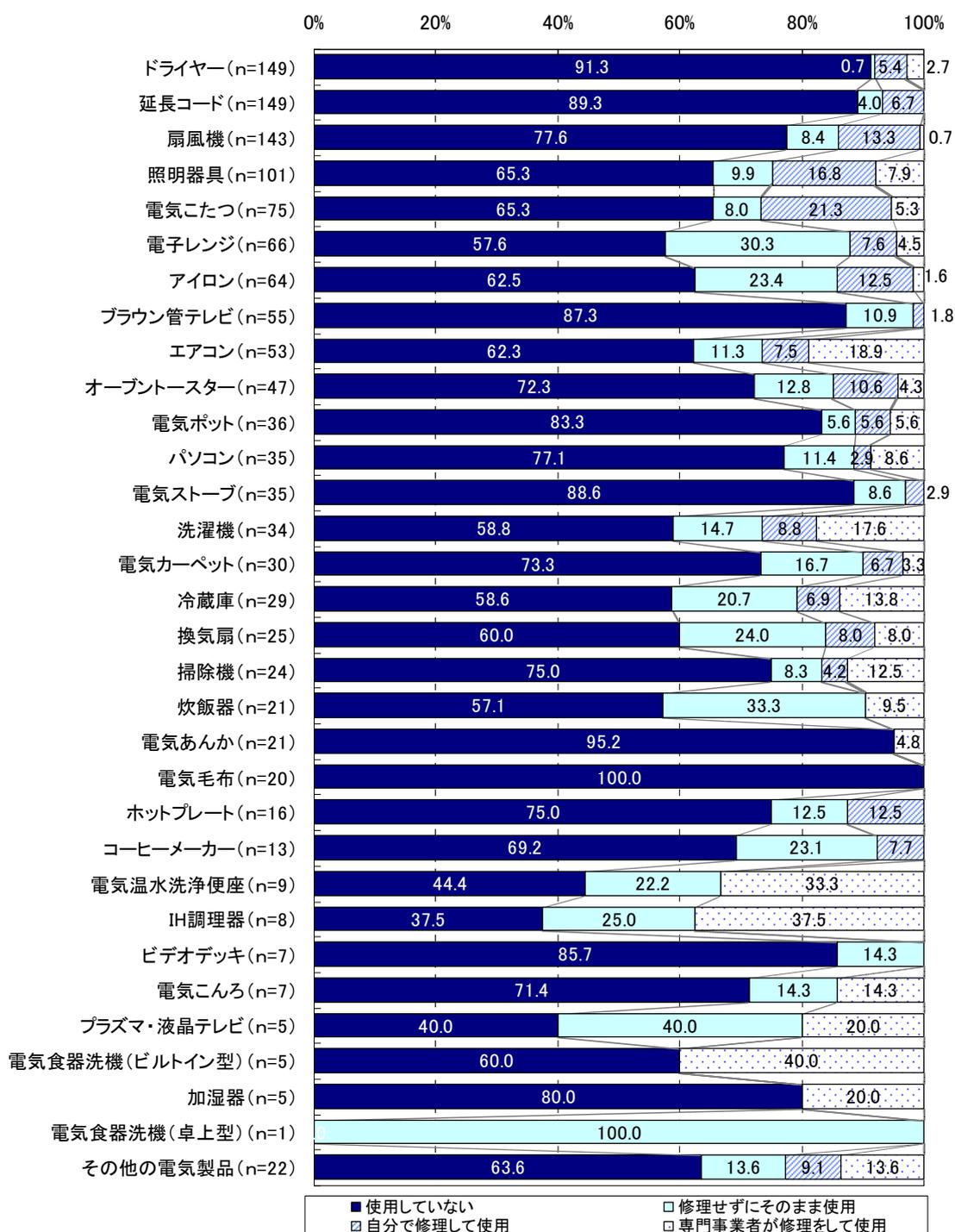
図 8 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無



エ ヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

図9は、「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験者が多い上位10製品についてみると、「ドライヤー」は「使用していない」と回答した割合が最も高く、91.3%を占めた。一方、「電気こたつ」は、「自分で修理して使用している」割合が最も高く、21.3%だった。自分で修理して使用している例としては、「コードをテープで止めた」等コードに関するものが大部分を占めた。

図9 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況



オ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 1-1、表 1-2 は、「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「コードやプラグから火花や煙が出た」等のコードに関するものが多かった。最も重大と思われるものは、「電気こたつのコードから発火してこたつと畳を焦がし、消火器で消した」事例(表 1-1:22)だった。

特徴的なものとしては、「動いたり止まったりする扇風機の羽根に触った」という事例(表 1-1:9~12)があった。そのうち、ケガをしたものが2件(表 1-1:9,10)、残りの2件(表 1-1:11,12)は羽根を指で回してみたものの、ほとんど回転しなかったという内容である。扇風機を長期間使用していると、羽根の回転が不規則になることがあり、気になってつい触ってしまったと考えられる。異常を感じた時には、まずスイッチを「切」して電源プラグを抜くことが大切である。

製品の異常に気付きながらも使用を続けていたら、発火・発煙した等の事故が起こった事例として、「ドライヤーから焦げ臭いにおいがしたが、そのまま使用していたら、2、3ヶ月後に突然火を噴いた」(表 1-1:1)、「約1ヶ月前からドライヤーが異常に熱くなっていたがそのまま使用していたら、ある日、スイッチを入れたら火が噴き出た」(表 1-1:2)等があった。発火等の重大な事故を防ぐためには、異常に気付いたらすぐに使用を中止すべきである。

「照明器具」の具体的な内容の中には、「照明器具のカバーが落下した」(表 1-2:16,17)、「蛍光灯が外れてぶら下がっていた」(表 1-2:19)等の事例があった。照明器具の落下の原因のひとつとして、度重なる取り付けや取り外しによる取り付け部品の変形やソケット等の部品が熱により劣化してひび割れや変形を起こしたことが考えられる。照明器具は、長期間使用されることが多い。変色、変色、変形、ひび割れ等がないか時々点検することが必要である。

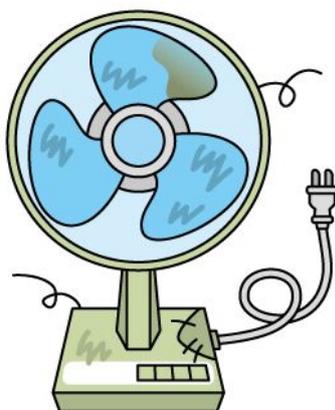


表 1-1 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	使用年数	回答者	
1	ドライヤー	焦げ臭いにおいを感じていたが、普通に作動していたのでそのまま使用していたところ、2,3ヶ月位たった頃、突然火を噴いて髪の毛を少し焦がし、やけどをしそうになった。	10~15年	60代女性
2		1ヶ月位前から10分程の使用で本体が異常に熱くなるので異常は感じていたが、他に異変はなかったので普通に使用していたら、その日に限って電源を入れて1,2秒でボンという音と同時に火が噴き出た。	10~15年	60代男性
3		いつも使っていると熱くなり、サーモスタットがきいていたが、今度ばかりは当然煙が出て止まってしまった。	30年以上	60代男性
4		プラグが発熱し、根元が半分断線していたので、修理して継続使用中。	10~15年	60代男性
5		ドライヤーを使用中にコードの折れ癖がついていた箇所から発火した。	15~20年	60代男性
6	延長コード	自分でコードを接続して作った延長コードの接続部分のビニールテープで覆った絶縁部分が、長い年月の経過によって通電の熱で溶け、ショートして発煙した。	10~15年	70代男性
7		長期間使用していたため、延長コードの一部分に傷につき電線がむき出しになってショートし、火花が出てじゅうたんが焦げてしまった。	20~25年	70代男性
8		延長コードをコンセントに差すしたらコードの付け根から煙が上がり発火したので、急いで抜いたら消えた。コードが古くなって固くなっていたため、曲がりの部分が切れかかっていた。	10~15年	70代男性
9	扇風機	この夏、キーキーという音を発し、回転が止まったり、動いたりしていた。動かそうと手を入れたところ、急速に回転し始め、手に軽い傷を負った。	30年以上	70代男性
10		扇風機で10年近く使用したもので、羽根が動いたり、止まったりする。指を入れて羽根を回したら、突然動き出し、指を切った。	10~15年	60代男性
11		古い扇風機を出し、動かしてみようとしたところ回転しなかったので、手で動かしたところ、少し回転してすぐ止まってしまった。モーター部分が発熱していたので、使用をやめ、廃棄した。	10~15年	60代男性
12		モーター音はするが羽根が回らなかった。手で少し回してやるとゆっくり回るが、本体がすごく熱くなっていた。	10~15年	60代女性
13		扇風機からガタガタと異常音がして回転が不規則になったと思ったらモーター部分から煙が出てきたので使用をやめた。	15~20年	60代男性
14		古いが、首振り角度やタイマー設定時間などが細かく設定されていて愛用していた扇風機が今年の使い始め直後、突然ガード用の金網の針金の1本が外れて脚に当たり、すり傷が出来た。	15~20年	60代男性
15		ずっと異常音がしていたので、様子を見ようとカバーを外そうとした時にカバーが急に外れ、扇風機の羽根が露出し指をケガした。	10~15年	60代男性

表 1-2 「電気製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

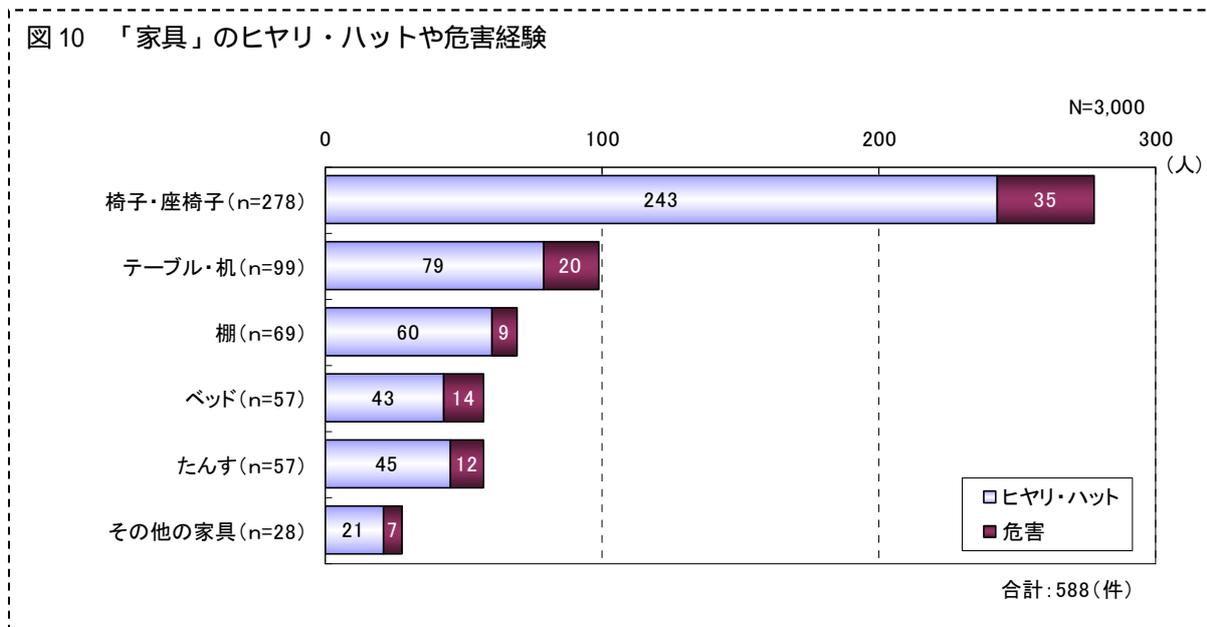
製品名	内容	使用年数	回答者
16	シーリング蛍光灯のカバーが、就寝中に顔の付近に落ちてきた。見ると、カバーを止めるフックのばねが戻らなくなっており、蛍光灯を交換した際にそれに気付かず、知らないうちに緩んで落下したものと思われる。	10～15年	60代男性
17	蛍光管を取り替えてカバーをしたが、カバーのプラスチック部分に劣化があり、留め金から外れて頭の上に落ちてきました。蛍光管を取り替えるたびに枠の取り付けには手間取っていた。	30年以上	60代男性
18	直管蛍光灯で管の両端が黒化していた。そのまま使用したところ、過熱によりカバー取り付け部が破損して、カバーが落下した。安定器周辺が黒く変色している。	25～30年	60代男性
19	台所の蛍光灯が3本入った照明器具がある日、半分落ちたような格好で天井からぶら下がっていた。電気店を呼んで修理をした。	15～20年	70代男性
20	接続不良で時々突然照明が切れることが起こった後に、照明器具の接続部分（天井から垂れ下がっている部分）から発煙が見られた。	20～25年	70代男性
21	デスクランプが時々ちらついており、機器本体も異常な熱さだったがそのまま使用していた。そのうち、電球からパチパチと音がしたので電球が緩んでいるのかと思い、締めなおそうとしたところ、物凄いショート音と共に電球の根元部分が破損し、停電してしまった。	20～25年	70代男性
22	電気こたつのコードが劣化していたと思われ、急に煙が出てきてその後火が出てきた。布団がかけてあるため、すぐには気付かず、煙に気付いた時には火が出ていた。あわてて消火器で消したが、こたつと畳を焦がしてしまった。	10～15年	60代男性
23	こたつが時々つかない事があったがうっかりそのまま使用したところ、半月ほどしてから異常に熱くなって、ある日煙が出ていたので使用を止めた。	15～20年	60代女性
24	こたつのコードが熱くなっていたので、コードのスイッチの中を開けたところ、スイッチに入るコードの被覆が取れて電線がむき出しになっていた。問題になった箇所を切断してスイッチにつなぎ変えてそのまま使っている。	20～25年	60代男性
25	タイマーの故障で時間設定をしても止まらなかった。牛乳の沸かし直したため、開戸して、マグカップを取り出そうとした時に、突然、突沸し、飛び出した牛乳で手にやけどをした。すぐにメーカー修理に来てもらいテストしたがなかなか症状が出なくて困ったが、20回テストの内2回出たのでタイマーキット部分を交換してもらった。	10～15年	60代女性
26	アイロンから異常な臭いがするので確認すると、コードの根元の被覆が破れて芯線が露出し、そこから煙が上がった。	15～20年	70代男性
27	ブラウン管テレビから突然樹脂の焼けるような臭いがして煙が出た。電源はすぐに抜いたが裏面がかなり焦げていた。	10～15年	60代男性
28	昨年の夏、使用中に急にバリバリという音がした。一度止めて、ふたを開けようと思ったら、本体部分がかかなり熱を帯びていて、このままでは爆発しそうな気がして、使用を中止した。	10～15年	60代男性
29	長年使っていた炊飯器、毎朝、毎晩使うので差込プラグがこすれて被覆が汚れ磨り減っていた。ある朝、いつものようにプラグを差し込んだら、「ぼっ」と音がして発火した。慌ててタオルでプラグをつかんで抜いたら、被覆が破れ銅線が露出していた。コードの中でショートしていた様だった。毎日入れたり抜いたりするのでプラグの周囲に力がかかっていたのだろう。怖かった。	15～20年	60代男性

(3) 家具

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 10 は、「家具」の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したのは、「椅子・座椅子」が 278 人（ヒヤリ・ハット：243 人、危害：35 人）で最も多く、次に「テーブル・机」が 99 人（ヒヤリ・ハット：79 人、危害：20 人）と続いている。「その他の家具」は、「突っ張り棚」等があった。

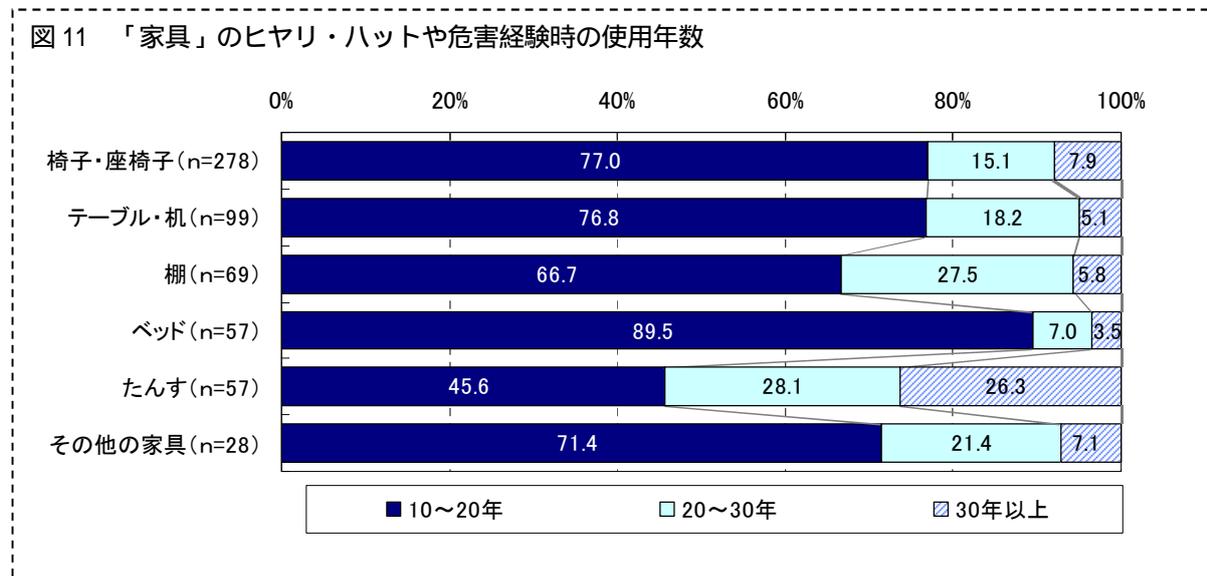
図 10 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数

図 11 は、「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数を示している。「10 年以上 20 年未満」と回答した割合が最も高いのは「ベッド」で 89.5%、「20 年以上」と回答した割合は「たんす」が最も高く 54.4%だった。

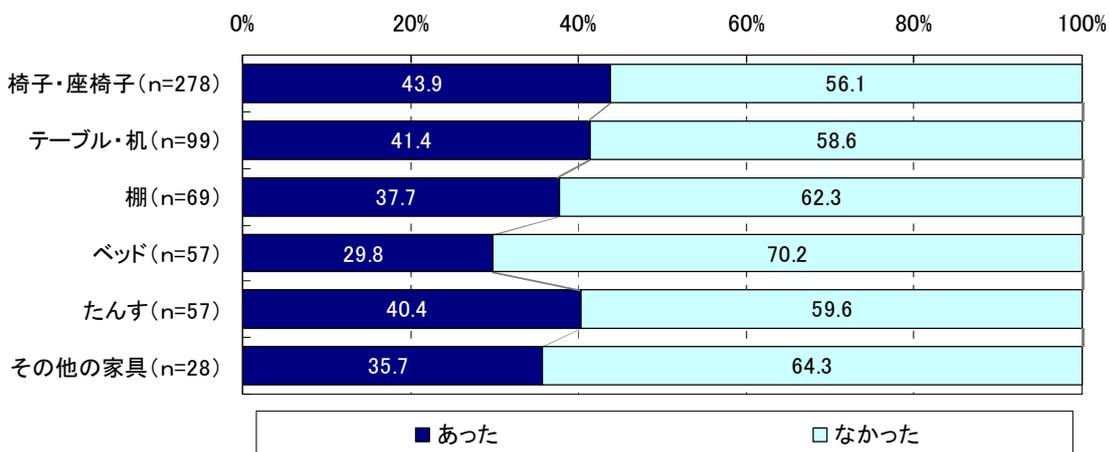
図 11 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数



ウ ヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無

図 12 は、「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無を示している。異常が「あった」と回答した割合は「椅子・座椅子」が最も高く 43.9%、次いで「テーブル・机」が 41.4%だった。異常の内容は、「がたつき」や「ねじの緩み」等だった。

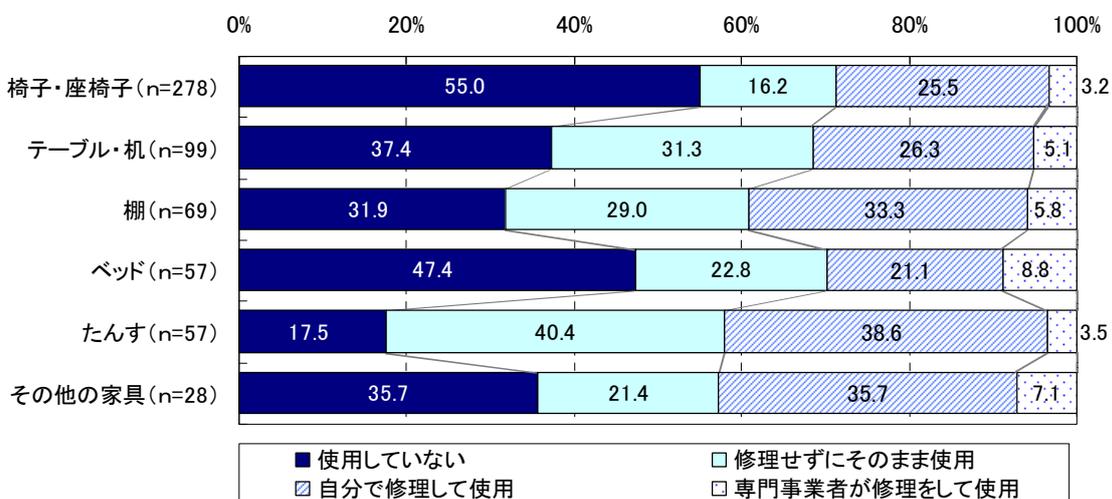
図 12 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無



エ ヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

図 13 は、「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況を示している。「椅子・座椅子」は、「使用していない」と回答した割合が最も高く、55.0%を占めた。「たんす」は、「修理せずにそのまま使用している」、「自分で修理して使用している」と回答した割合が6製品中最も高く、それぞれ 40.4%、38.6%だった。自分で修理して使用している例としては、「緩んだねじを締め付ける」、「接着剤で固定する」等があった。

図 13 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況



オ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 2-1、表 2-2 は、「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容をみると、「椅子の背もたれやテーブルの脚等が破損して転倒した」、「たんすの開閉不良により手を挟まれた」等が多かった。

特徴的なものとしては、「テーブルに手をついて体を支えようとしたところ、テーブルの破損やぐらつき等により転倒した」というもので、類似の事例が 9 件（表 2-1：11～19）あった。加齢に伴い足腰が弱くなると、テーブルに手をついて体重を支えながら立ち上がることが多くなり、ぐらつきや部品のゆるみ等の異常があるテーブルを使用していると、バランスを崩して転倒する恐れがある。高齢になると、転倒により骨折等の重大なケガにつながる危険性が高まるので十分な注意が必要である。

全体的に、がたつきや緩み等の不具合に気が付いていたがそのまま使用を続けたところ、ケガをした事例（表 2-1：5 他）も多かった。また、破損した製品に自分で応急処置を行って使用を続けた結果、再度同様な事故が起きてしまった事例（表 2-1：3）もあった。事故防止のためには、製品の異常に気が付いたら一旦使用を中止するのがよい。

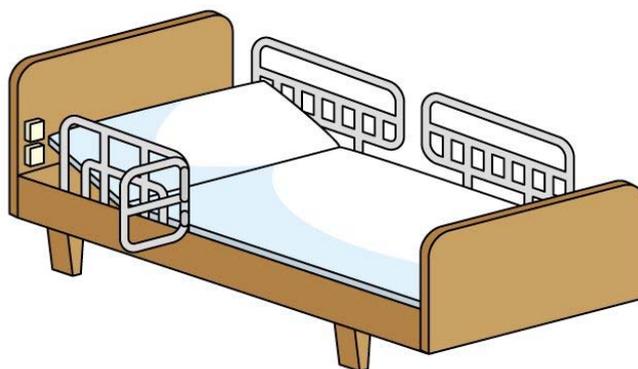


表 2-1 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	使用 年数	回答者
椅子・ 座椅子	1 座椅子の背もたれを調整する器具が10年前からぐらついており、時折ねじを締めなおして使っていた。背もたれの調整をする際にレバーを上げたところ、レバーのカバーごと外れてその隙間に指を挟まれた。軽い裂傷程度で済んだが、1ヶ月以上傷が残った。	20～25 年	70代 男性
	2 椅子の取り付けビスが緩んでいて、隙間が空いていた所に肉を挟んでしまった。現在は全てのビスを締付けて使用している。	10～15 年	60代 男性
	3 3年前、15年以上使用していた椅子の背もたれの部分が外れて尻もちをついた。以前からバンド等で補強して外れないようにしていたが、背もたれの継目部分が何度補強しても抜けて、2年程前に後に倒れて尻もちをつき、他の家具に頭を打ちそうになった。再度バンドで補強しても同様に抜けてくるので、分解し、接着剤で固定して現在も使用中。	15～20 年	80代 男性
	4 木製で3段階可変式の座椅子の背もたれに手をついて立とうとしたところ、可変部分が壊れて転倒した。数週間前から変な音がしたが、使っていた。	15～20 年	80代 女性
	5 椅子の脚が外れて、左足を少しひねってしまった。以前から少しがたがたしていたが、気にせず使っていた。リサイクル品だが、接着剤で修理してまだ使っている。	15～20 年	60代 男性
	6 20年以上使用しているお気に入りのアンティークの椅子を踏み台にして庭のクウイを採ろうとしたら、椅子の足が折れて転倒した。	20～25 年	60代 女性
	7 長年愛用していた椅子だが、ある日突然足のパイプが1本破断して側方に倒れ、捻挫した。	10～15 年	70代 男性
	8 かなりの年代物の椅子だったが、メンテナンス済みで購入。時々手を置く部分がかくかくしていたが、突然折れるとは、手がガクンと落ちすり傷を負った。自分で木工接着剤で修理して使用中だが、そちら側には寄りかからない。	20～25 年	60代 女性
	9 椅子の座面が裂けて尻もちをつきそうになった。キャンパス地の椅子で、若干裂け目があったがそのまま使っていた。	10～15 年	60代 男性
	10 長年使っている食堂の椅子(背もたれのないベンチ)が緩んでいて、落ちそうになった。いつもは息子が使っていて、彼はその状態を分かって使っていたが、私は知らずに腰かけてひやりとした。	10～15 年	60代 男性
テーブ ル・机	11 テーブルに手をついて体重をかけた際、テーブルの脚が折れて転倒しそうになった。以前からぐらぐらしていた。	15～20 年	70代 男性
	12 机に手をついた時に、脚の1本が折れた。自分は机と一緒に転倒したが、ケガはなかった。相当古いものであるが廃棄するのは惜しいので、専門業者に修理を依頼し、現在も使っている。	25～30 年	60代 男性
	13 立ち上がる時に、手をついたらテーブルの脚が折れた。	25～30 年	60代 男性
	14 テーブルに手をついたら、テーブルの脚が外れて転びそうになった。	15～20 年	70代 女性
	15 テーブルの脚の根元が緩くなり、手をついた時にぐらつき、バランスをくずして転びそうになった。以前から多少ぐらつく感じはあったが、あまり気にせず使用していた。	15～20 年	80代 女性
	16 高さ30cmほどの座卓テーブルで、脚がぐらついていたので、手をついて力を入れたところガタンと傾いた。脚はテーブル本体にはめ込むタイプでねじなどは無く、危険な構造だと思う。	10～15 年	80代 男性
	17 テーブルの足が緩んでいて上から押さえると倒れる。立つ時にテーブルを支えにして立ったら、テーブルが倒れた。	10～15 年	60代 女性
	18 ちゃぶ台の高さの小さな木製テーブルで、脚部の横棒が外れていたため、台部に手をついた時に転倒しそうになった。そのテーブルは脚部に注意しながら今でも使っている。	10～15 年	60代 男性
	19 キャスター付きのテーブルで普段はキャスターにロックがかかっているのだが、ロックが壊れていて、テーブルに手をついた時にテーブルが動いて転倒し、腰の骨を折って入院した。	10～15 年	80代 女性
	20 テーブルの上板と足を繋ぐ金具の劣化でテーブルが破損し、テーブルが倒れて食事の器類が落ち、足首等に当たって切り傷や打撲を負った。	15～20 年	60代 男性

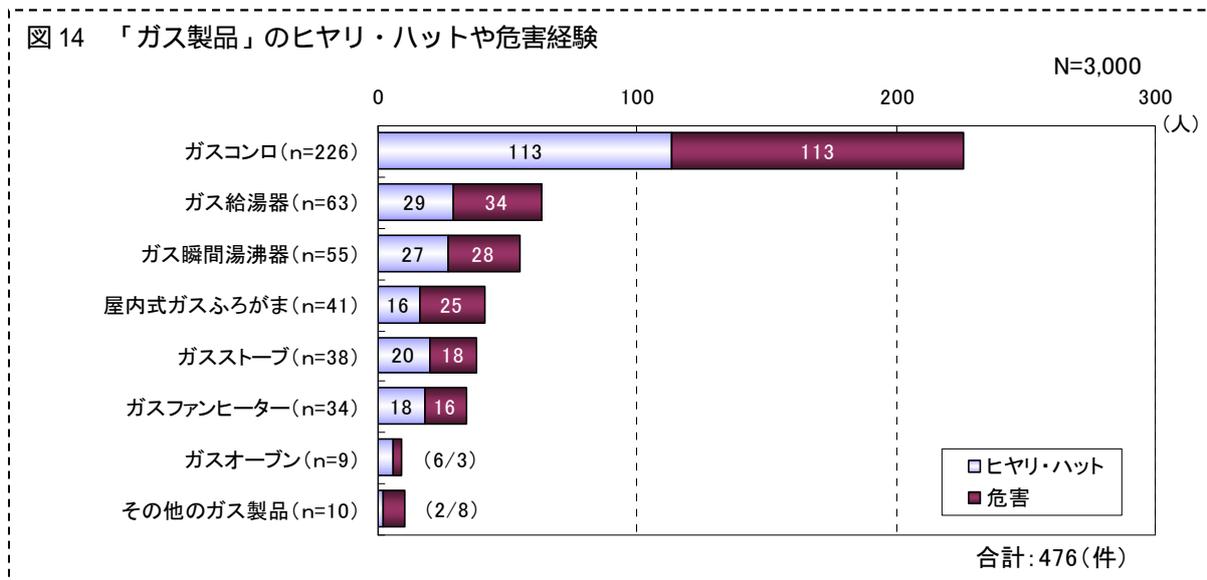
表 2-2 「家具」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	使用年数	回答者
21	茶たんすの大きな両開きガラス戸の片方を手で引っ張って開けた途端、止め金具の劣化からその金具が壊れ、大きなガラス戸が私の足に落ちそうになった。	20～25年	70代男性
22	ビスが外れて棚が落ち、支えようとして手に傷を負った。以前から棚がたわんでいるとは思っていたが、気にせず使用していた。	25～30年	60代女性
23	棚の棚板が割れてしまい、手に木の破片が刺さった。棚板がたわんでいることには気付いていたが、ひび割れがあったことにはその時まで気付かなかった。	15～20年	70代女性
24	本棚のガラスと木でできた扉の蝶番が突然折れ、扉が足の上に落ちた。蝶番は色や質感から真鍮製だと思っていたが実は樹脂製だった。現在は扉を外して使用している。	15～20年	60代男性
25	作りつけの書架で、前面ガラス部にガタがきていた。閉める時にガラスがストッパーから飛び出し、手を切って三針縫ったが。業者に直してもらい、現在も使用中。	10～15年	80代男性
26	ベッドに落下防止の手すりを付けていたが、緩みが出てぐらぐらしていた。業者に点検依頼をした日に、手すりに力を入れて立ちあがったら、外れて転倒し、腰の骨を折った。	10～15年	70代女性
27	ベッドの脇の手すりが多少緩んでいたが、そのままにしていたところ、寝ている時に手が挟まった。ボルトを強く締め直し、現在も使用している。	10～15年	60代男性
28	木製のベッドで木枠の中に幅6cm、厚さ7～8mmの板のすのこを隙間を開けて敷き、その上にマットレスを置く単純なベッドだった。年数がたつにつれ、すのこの変形や反りによりすのこが外れ、ベッドから落下した。	25～30年	60代男性
29	たんすの蝶つがいが壊れたので修理を依頼し、一旦元に戻ったように見えていたので使用を続けていたら、また壊れて隙間に挟まれた。	15～20年	60代男性
30	たんすの引き出しが動きにくくなり、力を入れて取り出した時に、ささくれ状の木片が指に刺さった。	30年以上	60代男性
31	引き出し部分の動きが悪く、強めの力で出し入れが必要であり、その際、指を挟む、手を傷める「ヒヤリ・ハット」があった。長年の使用で引き出し部分の底が下方にずれていた。	10～15年	60代男性
32	30年以上使用していたたんすは、以前から歪みが出てきて引き出しがまっすぐ出てこなかったり、中に納まらないことがあった。ある日、引き出す時に斜めに出て、戻すことも出すことも出来なくなったので、力いっぱい戻したら、指を挟んだ。	30年以上	80代男性
33	代々使用していた金具付きのたんす。引っ越し続きで金具がめくれていたのには気付いていた。無造作に使用しようとして手をひっかけ、手の甲をめくられた金具でひっかいた。息子にペンチやらトンカチやらで直してもらい、気を付けて意識しながら使っている。	30年以上	60代女性
34	木製の洋服たんすから着替えの洋服を出そうと扉を開けたときに、突然たんすのドアの表についていた鏡（縦100cm、横25cmくらいの大きさ）が足元に落ち、右足を打撲した。鏡は割れ、危うく大ケガをすところだった。	15～20年	60代男性

(4) ガス製品

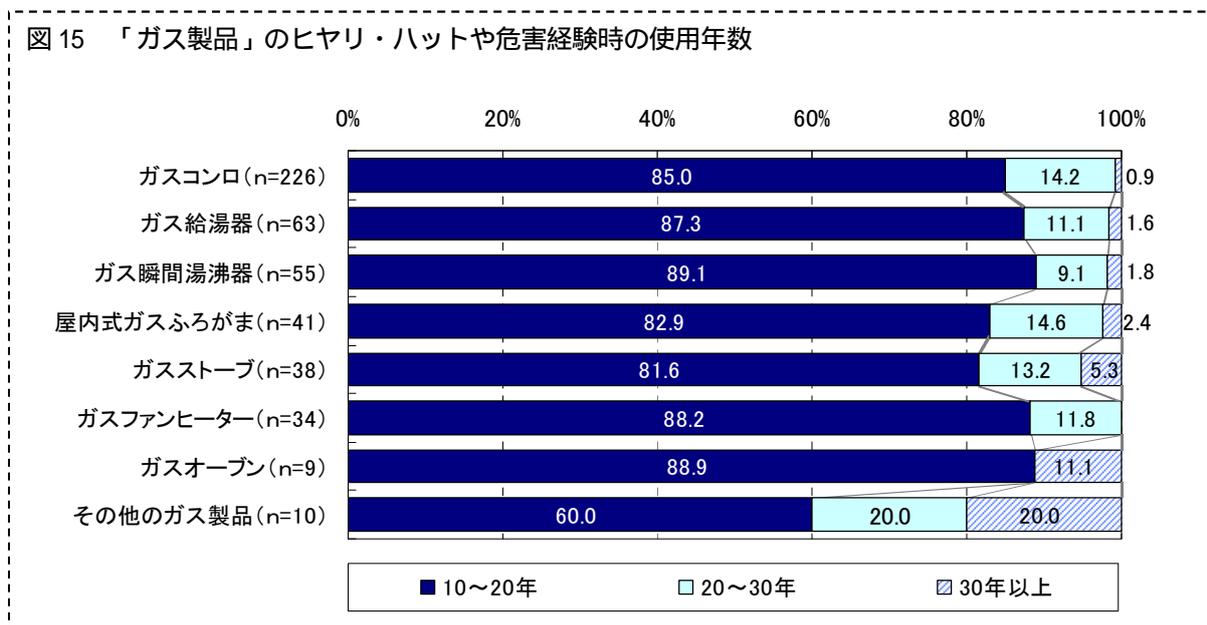
ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 14 は、「ガス製品」の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したのは、「ガスコンロ」が 226 人（ヒヤリ・ハット：113 人、危害：113 人）で最も多く、次に「ガス給湯器」が 63 人（ヒヤリ・ハット：29 人、危害：34 人）と続いている。「その他のガス製品」は、「ガス炊飯器」等があった。



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数

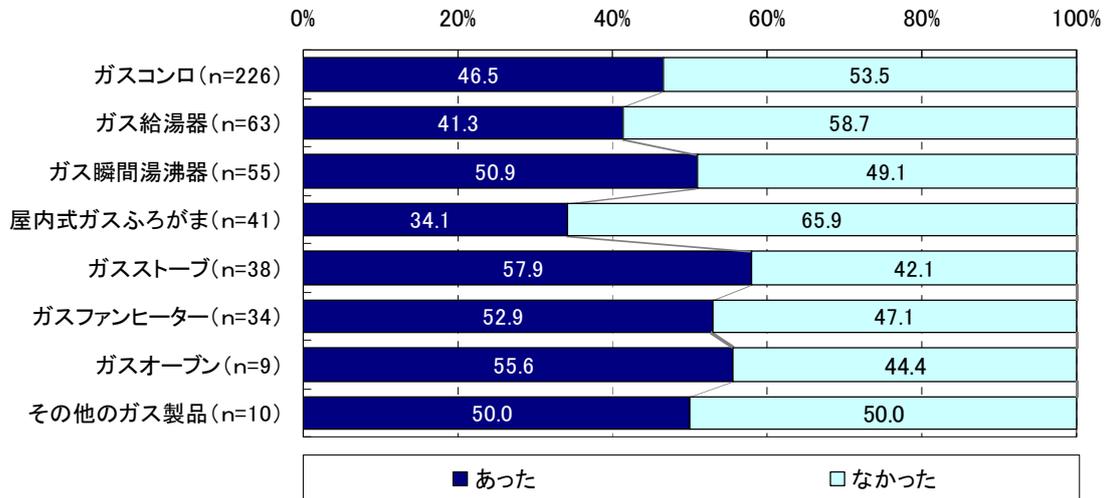
図 15 は、「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数を示している。「10 年以上 20 年未満」と回答した割合が最も高いのは「ガス瞬間湯沸器」で 89.1%、「20 年以上」と回答した割合は「その他のガス製品」を除くと、「ガスストーブ」が最も高く 18.4%だった。



ウ ヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無

図 16 は、「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無を示している。異常が「あった」という回答した割合は、「ガスストーブ」が最も高く 57.9%、次いで「ガスオープン」が 55.6%だった。具体的な異常の内容は、「点火不良」や「異臭」等だった。

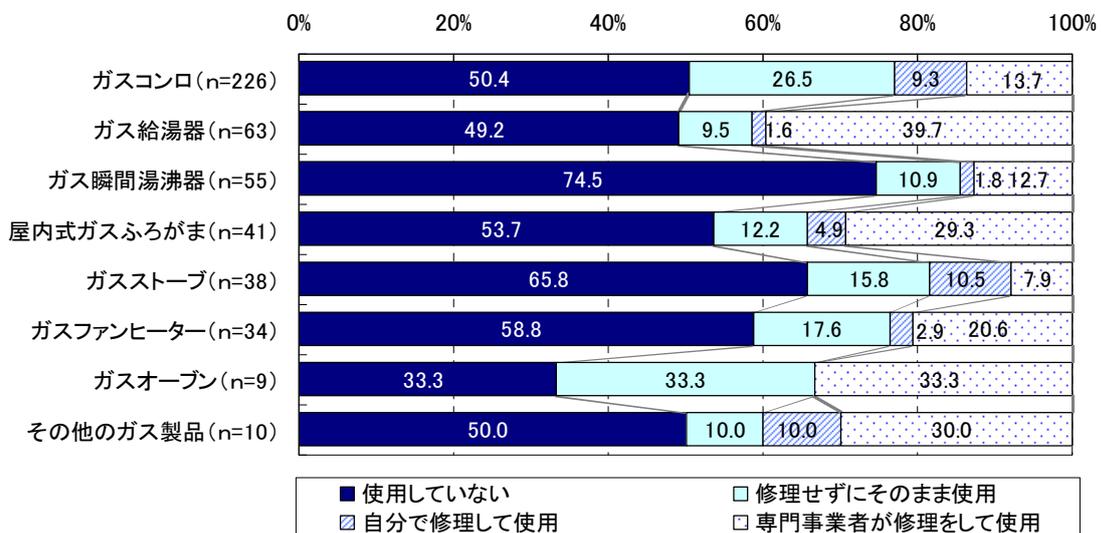
図 16 「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無



エ ヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

図 17 は、「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況を示している。「ガス瞬間湯沸器」は、「使用していない」と回答した割合が最も高く、74.5%を占めた。「専門事業者が修理をしている」という回答は、「ガス給湯器」が最も高く、39.7%だった。自分で修理して使用している例としては、「掃除をした」等があった。

図 17 「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況



オ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表 3 は、「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示している。内容を見ると、「点火しにくくなっていたところ、突然大きな炎が上がった」や「ガスが漏れていた」等の事例が多くあった。また、「ガス会社の定期点検時に異常が見つかった」事例（表 3:8,9）もあった。事故防止のためには、点検を必ず受け、少しでも異常を感じた時には、使用を中止し、販売店等に連絡することが重要である。

表 3 「ガス製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

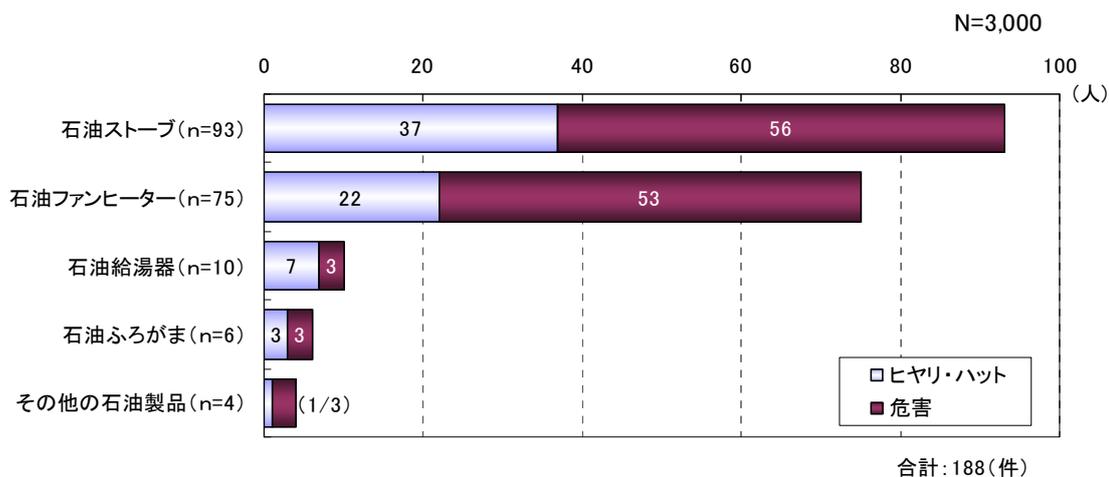
製品名	内容	使用年数	回答者	
1	自動点火しなくなり、着火ライターで火をつけていたら、突然大きな炎が上がりに、右手に軽いやけどを負った。	10～15年	70代女性	
2	取り換える3カ月ぐらい前から点火しにくくなっていた。何度もやっても火がつかないので仕方なくマッチでつけようとしたところ、大きな炎が上がりにびっくりして手を五徳にぶつけ、傷を負った。	20～25年	60代女性	
3	2～3年前位から点火しにくくなっていたのだが、パチンパチンと何度もスイッチを回していたら、突然大きな炎があがった。炎の出る穴が詰まっていたのが原因だった。自分で掃除した。	10～15年	60代女性	
4	スイッチを入れても点火プラグに着火せず五徳を外して修理しようと触った時、指に軽いやけどをした。	20～25年	60代男性	
5	約20年前から利用していたためか、五徳に段差ができており、フライパンが傾く状態になっていて、目を放した際にフライパンが落ちそうになった。五徳の位置を調整してもらい現在も使用している。	15～20年	60代女性	
6	温度調節が出来なくなって、40度に設定して使用していたが急に60度くらいに変わり、シャワー使用中だったので皮膚が赤くなった。	10～15年	70代女性	
7	半年前ぐらい前から燃焼音の異常があり、直前は異臭がして裏から炎が飛び出していたのであわてて消した。	10～15年	60代男性	
8	ガス会社の点検で不完全燃焼していると指摘され、すぐ取り替えるよう言われた。ガス会社に指摘されるまで不完全燃焼にはまったく気付かなかった。検針用機器の針が振り切れるほど不完全燃焼していたと言われ、ぞっとした。給湯器はすぐに交換した。	10～15年	70代女性	
9	ガス会社の点検で一酸化炭素の濃度が高いことが分かった。異常は何も感じなかったが、排気の一酸化炭素の濃度が規定の10倍以上に上がっていたので交換した。	15～20年	60代男性	
10	使用時に頭が痛くなることがあったので点検したところ、ガス漏れが発生していた。	10～15年	60代男性	
11	点火してすぐ消えることが多くなり、ガス会社に点検してもらったところ、「不完全燃焼防止装置が機能していないので使用を中止して新しい製品に変えて下さい」と言われ、後日新しいものを取り付けた。	15～20年	60代男性	
12	ガス瞬間湯沸器が数週間前から点火がしづらくなっていた。その朝も点火しないので何度かスイッチを押したら、突然大きな炎があがったので、慌てて元栓を閉め、ガス会社へ連絡した。	10～15年	60代男性	
13	屋内式ガスふろがま	かすかにガスの臭いを感じガス会社に来てもらった。ガス管との接続部管の劣化によりガスが漏れており、接続部分を交換した。	30年以上	60代女性
14	ガストーブ	ゴムホースが経年劣化し、ガス漏れで臭いがあったので、ガストーブを新しい物に買い替えた。	10～15年	60代男性
15		コードとガストーブの接続部分の結合が緩んでいたため、わずかだがガス漏れがあった。ガス会社に連絡して修理してもらった。	15～20年	70代男性
16	ガスファンヒーター	ガスの元栓が古いタイプで、コネクト部品の劣化でガスが漏れていた。元栓を新型に替えた。	10～15年	60代女性

(5) 石油製品

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

図 18 は、「石油製品」の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害経験者の数を示している。ヒヤリ・ハットや危害経験が「ある」と回答したのは、「石油ストーブ」が 93 人（ヒヤリ・ハット：37 人、危害：56 人）で最も多く、次に「石油ファンヒーター」が 75 人（ヒヤリ・ハット：22 人、危害：53 人）と続いている。その他の石油製品としては、「FF 式石油温風暖房機」等があった。

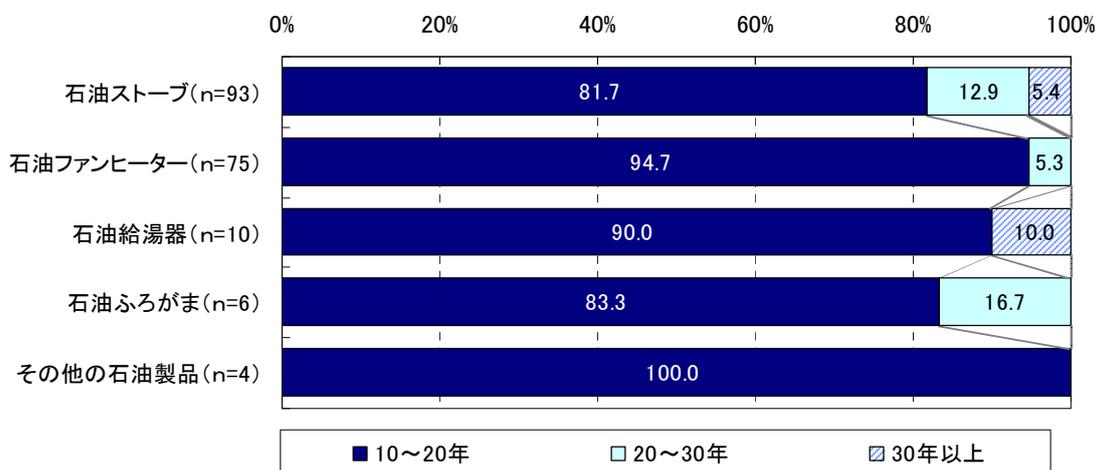
図 18 「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数

図 19 は、「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数を示している。「その他の石油製品」を除くと、10 年以上 20 年未満の割合が最も高いのは、「石油ファンヒーター」で 94.7%、20 年以上では、「石油ストーブ」が最も高く 18.3% だった。

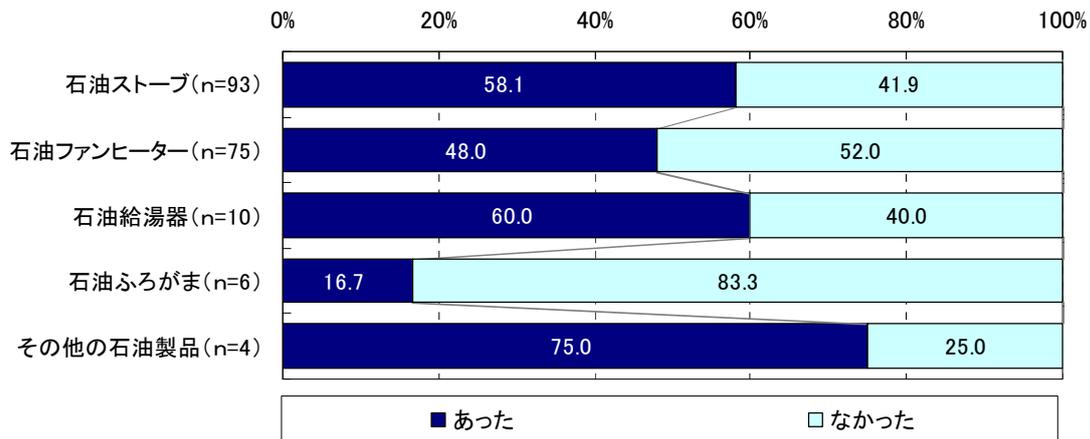
図 19 「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の使用年数



ウ ヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無

図 20 は、「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無を示している。異常が「あった」という回答の割合は、「その他石油製品」を除くと「石油給湯器」が最も高く 60.0%、次いで「石油ストーブ」が 58.1%である。異常の内容は、「炎の急な燃え上がり」や「異臭」等だった。

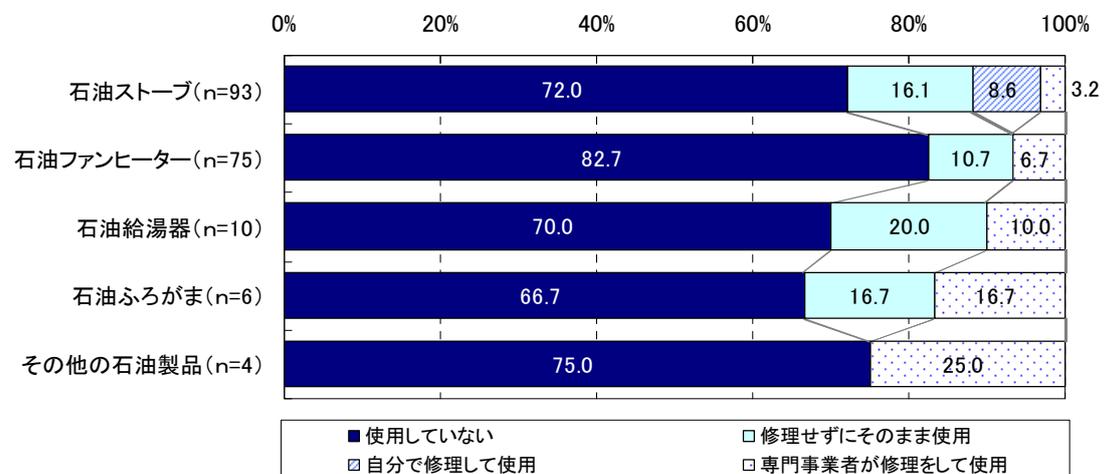
図 20 「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験以前の異常の有無



エ ヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況

図 21 は、「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在（アンケート回答時）の使用状況を示している。いずれの製品も「使用していない」が最も高く、「石油ファンヒーター」では 82.7%を占めた。「石油ストーブ」以外の石油製品は「自分で修理をして使用している」と回答したものはなかったが、「石油ストーブ」は 8.6%あった。自分で修理して使用する例としては、「部品（しん等）を交換した」等があった。

図 21 「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験をした製品の現在の使用状況



オ ヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

表4は、「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容を示したものである。

「石油ストーブ」の具体的な内容の中には、自動点火装置が故障したため、マッチで火をつけたら、「急に炎が大きくなってやけどをした」(表4:3)、「使用済みのマッチ棒がストーブの中に入ってしまい、燃えた」(表4:7)という事例があった。やむを得ずマッチで点火するときは、十分に注意しなければならない。

他には、「石油ファンヒーターが突然停止し、いじっているうちに吹き出し口に指を触れ、やけどをした」事例(表4:9)や「石油給湯器の状況を調べていた時に高温の排気が吹き出しやけどをしそうになった」事例(表4:11)があった。石油製品は、消費者が自分で点検や手入れを行うのが困難であり、十分な知識がないまま不完全な修理をするのは非常に危険である。そのため、不具合が生じた時にすぐに相談できるように、あらかじめ点検や修理ができる販売店等の連絡先を控えておくことが重要である。

表4 「石油製品」のヒヤリ・ハットや危害経験時の具体的な内容

製品名	内容	使用年数	属性
1	しんが急に発火して大きな煙を出したがやけどはしなかった。以前から炎にふらつきがあり、しんを交換したほうが良いと思っていた。	10～15年	60代男性
2	石油ストーブの点火時に、一気に燃え上がり、炎がストーブの上まで出てきた。緊急消火ボタンを押して火を消し、大事には至らなかった。以前から、炎の強弱の調整がうまくいかなかった。	15～20年	70代女性
3	点火の時、自動点火装置が壊れており、マッチによるしんへの点火をしたところ、一気にしんが燃え上がり、やけどをした。10年程度の使用でしん自体もほとんど無くなった状態で、取り替えることもままならず無理に引き出していたのと、マッチでの点火からふたを戻すのに間があったためである。	10～15年	70代男性
4	しんを買い替えて使ってきたが、着火が悪くなり、異臭がだんだんきつくなり、消す時も異臭が目にしみてきたので処分した。	15～20年	80代女性
5	しんが短く完全燃焼せず異臭がして目が痛かった。もう古いので替えのしんもないだろうということで、使用を止めた。	30年以上	80代男性
6	ライターで点火して、しんに火がついたのでそのままにしていたら、白い煙があがり、あっという間に部屋中に充満してしまった。しんに火がついたので大丈夫かと思ったが、不完全燃焼を起こしていたようだ。	15～20年	70代女性
7	石油ストーブの点火スイッチを押しても点火できないので、ストーブの筒のところを持ち上げてマッチで点火して使っていたが、しんの部分が劣化で小さくなって点火がしにくくなっていて、マッチの棒が中に入っていたらしく、少し燃えてしまったのであわてて火を消した。	20～25年	60代女性
8	点火時「ポッ」と言う小さな爆発音があり、白い煙が発生したので使用を中止した。以前から使用中に火が消えたり、音が断続的に大小したりして危険だと感じていた。	15～20年	60代男性
9	故障の前兆はなく、突然運転停止状態になった。いろいろいじくっている時に指にやけどをした。	10～15年	60代男性
10	給湯器を使用し入浴中、風呂以外にいた人が異臭に気付いた。以前から点火時に小さな爆発音が気になることがよくあったが、そのときは何でもないと思っていたのでしばらく放置していた。異臭が気になり業者に見てもらったら、交換時期が来ているとのことで買い換えた。	10～15年	70代女性
11	16年使用していた石油給湯器が、点火後すぐに止まる不具合があり、状況を確認するためにボイラー部を調べていた時に、高温の排気が吹き出し、やけどしそうになった。修理不能とのことで取り替えた。	15～20年	80代女性

4. まとめ

東京都に居住する 60 歳以上の男女 3,000 人を対象に、長期間使用した製品の劣化や異常によるヒヤリ・ハットや危害体験について調査した。その結果、ヒヤリ・ハットや危害経験が多い製品は、椅子、ガスコンロ、ドライヤー、延長コードだった。具体的な内容は、電気製品のコードの発火・発煙、ガス製品の着火不良やガス漏れ、家具類の破損による転倒等が多かった。

シニア世代に特徴的なものとしては、「ぐらついていたテーブルに手をついて立ち上がろうと体重をかけたところ、テーブルが破損して転倒した」事例があった。加齢に伴って足腰が弱るとテーブル等の家具で体を支えることが多くなる。このような場合にぐらつきや緩み等の不具合がある家具を使用しているとバランスを崩して転倒する危険があるので十分注意が必要である。

また、ヒヤリ・ハットや危害経験のうち、全体の約 4 割で以前から製品に異常があることに気が付いていたと回答しており、中には、異常に気が付きながらも使用を続けているうちにケガをした事例もあった。事故防止のためには、日頃から点検を行って正常な状態を覚えておき、製品の異常に気が付いた場合は、一旦使用をやめて、販売店やメーカー等に相談することが必要である。

5. 結果の活用

- (1) 事故防止のポイントをまとめた「シニア世代の身の回りの事故防止ガイド」により、都民へ結果を情報提供し、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集したヒヤリ・ハット体験を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。
- (3) 事業者団体等へ調査結果を情報提供する。